



著者・前川修満氏が読み解く『会計士は見た！』



数あるビジネス書や経済小説の中から、M&A Online編集部がおすすめの1冊をピックアップ。M&Aに関するものはもちろん、日々の仕事術や経済ニュースを読み解く知識として役立つ本も紹介する。

今回ご紹介するのは、『会計士は見た！』（前川 修満、文藝春秋）だ。読みどころを著者の前川修満先生に伺った。

「会計士は見た！」の読みどころ

会計情報は、会社の真の姿を物語ります。社長のインタビューなんかよりも、よっぽど正直です。これを会計士である筆者（前川修満）が読み解きます。

（内容の一部紹介）

その1：赤字決算にもかかわらず、多額の税金を納めているソニー。なぜ多額の法人税を納めているのか？じつは、会社の中核事業が大きく変わる戦略がとられていた。いったいどういう戦略なのか？

その2：父と娘がプロキシーファイトを繰り広げた大塚家具。その父親の経営姿勢までもが過去の決算書に、はっきりと示されていた。果たして親父さんはどういう経営姿勢の持ち主なのか？

その3：コストダウンでは絶対に削ってはいけない数字がある。かつて日産では、人員を大幅に削減し、容赦のないリストラがおこなわれたが、それでもモラルを低下させないよう、絶対に削らなかったコストがあった。それは何か？

その4：「工場がない製造業」のキーエンス。従業員の平均年収は1600万円。なぜそんなに儲かるのか？その秘密に迫る。

その5：2015年に粉飾が発覚した東芝。同年9月、修正された決算書が公表された。しかし、その修正が甘すぎることを、公表された貸借対照表は雄弁に物語っていた。

くわしくは本文に譲りますが、会計情報は難しくてしかつめらしいものではありません。むしろ、わかりやすく面白くものです。これを万民に感じ取っていただきたく、本書は上梓されました。（以上、前川 修満先生）

会計知識がなくてもわかりやすい文章で、あっという間に読めてしまう1冊。決算書で企業の「裏の顔」を知りたいという方は、是非読んでみてください。

文：M&A Online編集部

著者紹介 前川 修満（まえかわ・おさみつ）

公認会計士・税理士・日本証券アナリスト協会検定会員1960年石川県金沢市生まれ。同志社大学商学部卒業。渋谷工業株式会社、KPMG 港監査法人（現・あずさ監査法人）を経て、1992年に東京都渋谷区で公認会計士・前川修満事務所を開業、2006年にアスト税理士法人を設立し、代表社員に就任、現在に至る。主な著書は、「決算書は「下」から読む、が正解！」（S B新書）、「決算書はここだけ読め!」、「危ない会社は一発でわかる」（講談社）、「事件は帳簿で起きている」（KKベストセラーズ）など。アスト税理士法人のホームページはこちら